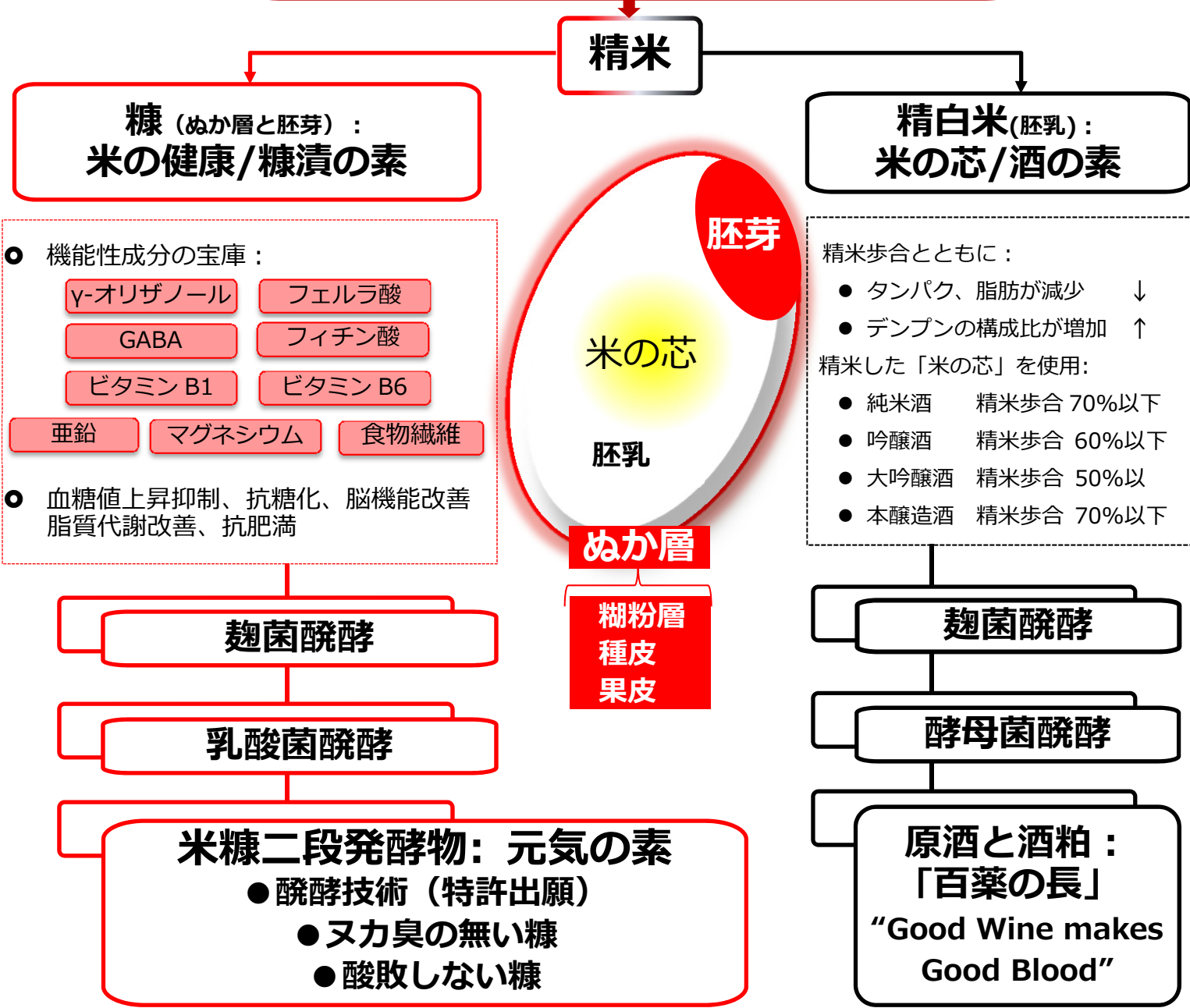


I. 温故知新：「米の健康をヒトの健康に」

日本酒用の原米（国産へのこだわり）

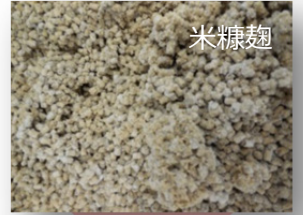


III. 製品情報：二段発酵米糠液とパウダーとシナモン乾燥エキス

1) 二段発酵米糠液とパウダー

関与成分	フェルラ酸、オルニチン、GABA など
推奨量/日	設定中
安全性試験	●食経験 有 ●残留農薬試験
機能性情報※	血糖管理、美肌、認知機能改善、腸内環境の改善

※文献情報に基づく。



2) シナモン乾燥エキス GMP093：

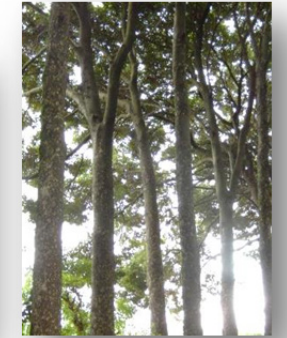
(1) 食品開発展(Hi)2015 出展社プレゼンテーション

世界最古のスパイス「シナモン」～血糖管理への利用～
10月7日(水)13:30～13:50 (F会場) ・ 10月8日(木)14:30～14:50 (F会場)

- ① シナモンの歴史と公定書収載
- ② 血糖管理に Cinnamomum cassia Blume (日本薬局方 桂皮)を使う理由
- ③ In-vitro/In-vivo 試験で作用機序の解明：Phytother.Res.19, 203 2005
- ④ 健常者（男女 12 名）でのヒト臨床経口ブドウ糖負荷試験（OGGT）：Diabetologie & Stoffwechsel 2008
- ⑤ 高血糖（男女 60 名）でのプラセボ対照二重盲検試験：European Journal of Clinical Investigation 2006
- ⑥ 関与成分についての考察
- ⑦ 安全性についての規格化：クマリン<0.1% 精油<0.1%
- ⑧ 製品開発のご提案：機能性八ッ橋（シナモン乾燥エキス + 二段発酵米糠）

(2) 日本桂皮を求めて（馬場隊長）：

- ニッケイ Cinnamomum loureiroi Nees
- ① 第7改正日本薬局方迄 日本ケイ皮として収載されていた
 - ② 使用部位：他のシナモンと異なり根皮
 - ③ 用途 食用、芳香性健胃剤
 - ④ 紀伊半島、四国、九州で自生

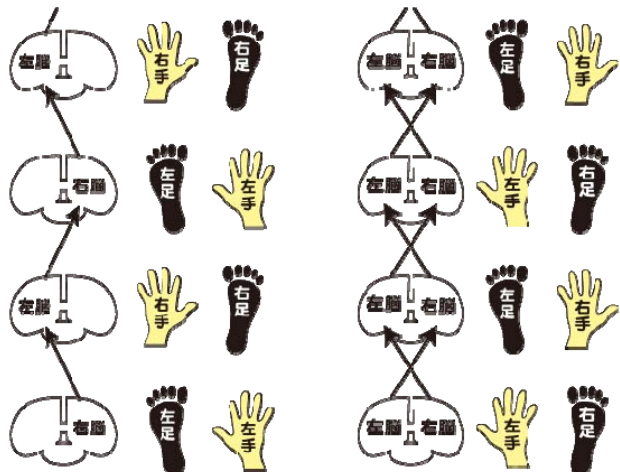


IV. ワークライフバランス：

1) リレーde ウォーク 行徳 法善寺発のおくのほそ道 ～到達点：新潟まで 1,391km～

★ 9月30日現在 山形県月山を歩行中。(1088.3km - 79%)

2) ナンバ歩きのご紹介：「夏山に足駄を拝む首途哉」芭蕉 からの気づき



- 従来の日本の歩き方で明治以降の行進歩きとは異なる
- 左手と左足 右手と右足 身体を捻らずに歩く
- 修験道の祖 役行者に倣い 芭蕉もナンバ歩き
- 相撲 柔道 剣道 歌舞伎 盆踊りに残る
- ナンバ歩きと行進歩き：左図、下表
出展 歩行道普及協会ウェブサイト「ナンバ式とは」

歩き方	◆ナンバ歩き	◇行進歩き
上半身と下半身	ねじらない	ねじる
足先の動かし方	つま先から	かかとから
身体の動かし方	少ない	多い
歩行可能時間	長時間	短時間
脳の状態	左脳&右脳	左脳優位
意識	意識的	無意識

II. 学術、海外のハーブ医薬品・食品についての情報：

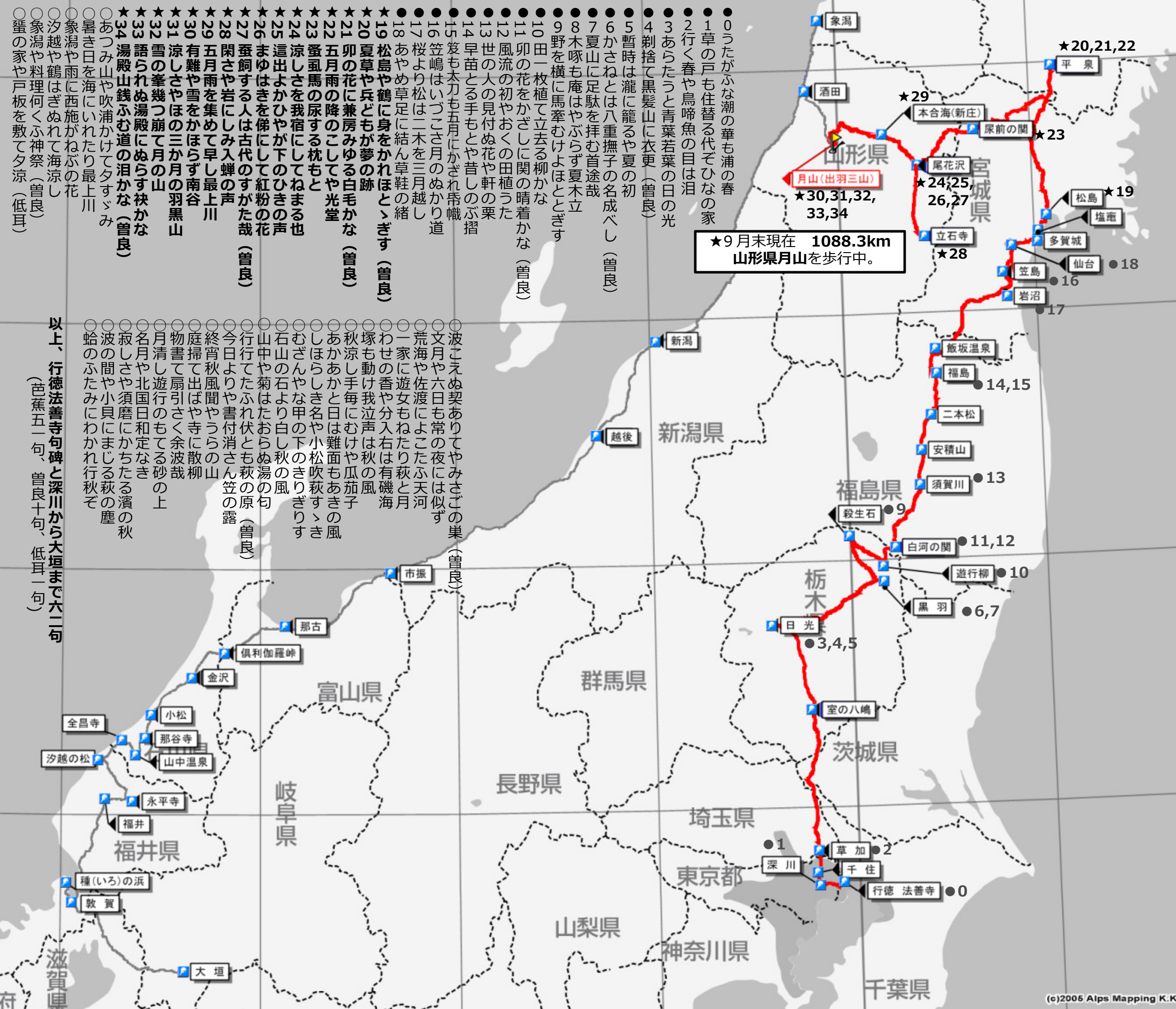
63rd Int. Congress and Annual Meeting of the Society for Medicinal Plant and Nat. Prod. Research (2015年8月23～27日 ハンガリー、ブダペスト)

☆ノコギリヤシ（ヘキサノール抽出物・エタノール抽出物）の有効性に関するシステマティック・レビューを発表（KOOP：ドイツ植物療法協会）

☆Sideritis scardica（シデリティス茶・ギリシャ山茶）抽出物の認知機能改善効果を発表（ドイツ・ハイデルベルク大学、Finzelberg社）

※詳細については、アスク薬品株式会社までご照会下さい。※





- 0 うたがふな潮の華も浦の春
- 1 草の戸も住替る代ぞひなの家
- 2 行く春や鳥啼魚の目は泪
- 3 あらたうと青葉若葉の日の光
- 4 剃捨て黒髪山に衣更(曾良)
- 5 暫時は瀧に籠るや夏の初
- 6 かさねとは八重撫子の名成べし(曾良)
- 7 夏山に足駄を拝む首途哉
- 8 木啄も庵はやぶらず夏木立
- 9 野を横に馬牽むけよほととぎす
- 10 田一枚植て立去る柳かな
- 11 卯の花をかざしに閑の晴着かな(曾良)
- 12 風流の初やおくの田植うた
- 13 世の人の見付ぬ花や軒の栗
- 14 早苗とる手もとや昔しのぶ摺
- 15 笈も太刀も五月にかざれ帟幟
- 16 笠嶋はいづこさ月のぬかり道
- 17 桜より松は二木を二月越し
- 18 あやめ草足に結ん草鞋の緒
- 19 松島や鶴に身をかれほととぎす(曾良)
- 20 夏草や兵どもが夢の跡
- 21 卯の花に兼房みゆる白毛かな(曾良)
- 22 五月雨の降のこしてや光堂
- 23 蚤虱馬の尿する枕もと
- 24 涼しさを我宿にしてねまる也
- 25 這出よかひやが下のひきの声
- 26 まゆはきを併にして紅粉の花
- 27 蚕飼する人は古代のすがた哉(曾良)
- 28 閑さや岩にしみ入蟬の声
- 29 五月雨を集めて早し最上川
- 30 有難や雪をかほらず南谷
- 31 涼しさやほの三か月の羽黒山
- 32 雪の峯幾つ崩て月の山
- 33 語られぬ湯殿にぬらす袂かな
- 34 湯殿山銭ふむ道の泪かな(曾良)
- あつみ山や吹浦かけて夕すゞみ
- 暑き日を海にいれたり最上川
- 象潟や雨に西施がねぶの花
- 汐越や鶴はぎぬれて海涼し
- 象潟や料理何くふ神祭(曾良)
- 蟹の家や戸板を敷て夕涼(低耳)

- 波こえぬ契ありてやみさごの巢(曾良)
- 文月や六日も常の夜には似ず
- 荒海や佐渡によこたふ天河
- 一家に遊女もねたり萩と月
- わせの香や分入右は有磯海
- 塚も動け我泣声は秋の風
- 秋涼し手毎にむけや瓜茄子
- あかあかと日は難面もあきの風
- しほらしき名や小松吹萩すゝき
- むざんやな甲の下のきりぎりす
- 石山の石より白し秋の風
- 山中や菊はたおらぬ湯の匂
- 行行てたふれ伏とも萩の原(曾良)
- 今日よりや書付消さん笠の露
- 終宵秋風聞やうらの山
- 庭掃て出ばや寺に散柳
- 物書て扇引さく余波哉
- 月清し遊行のもてる砂の上
- 名月や北国日和定なき
- 寂しさや須磨にかちたる濱の秋
- 波の間や小貝にまじる萩の塵
- 蛤のふたみにわかれ行秋ぞ

以上、行徳法善寺句碑と深川から大垣まで六二句
(芭蕉五二句、曾良十句、低耳一句)

出典：おくのほそ道文学館収蔵文書 おくのほそ道
松尾芭蕉著 底本／西村本 (抜粋)